

改質硫黄固化体の新名称を「レコサール」に決定！

記者各位

当社(社長:渡 文明)は、現在、製油所からの副生成物である硫黄を利用した産業副産物・廃棄物の有効利用技術として開発を進めております「改質硫黄固化体」の名称を「レコサール(RECOSUL)」とすることに決定致しましたので、お知らせします。

この「レコサール」は、約130-150°Cの溶融硫黄に添加剤を加えて製造した改質硫黄に、石炭灰等の微粉末、漁業系未利用物である貝殻、珪砂、あるいは産業副産物であるスラグ(溶鉱炉などで鉱石を溶錬する際に生じる非金属性のかす)等の骨材を混ぜ合わせたものを型枠に流し込んでから徐冷して固めたコンクリート状のものであり、「強度に優れ、耐摩耗性があり、自然にやさしく、酸に強い」等の数多くの特長を有します。

「レコサール」(RECOSUL)とは

1. 産業副産物・廃棄物の循環的な有効利用を表す「リサイクル(Recycle)」
2. 環境にやさしいことを示す「エコロジー(Ecology)」
3. 硫黄の特性を活用していることを表す「硫黄・サルファー(Sulfur)」

この3つの言葉を組み合わせた造語であり、地球環境に配慮した循環型社会実現の一翼を担う技術としての期待を込めて命名致しました。

当社では2002年12月に室蘭製油所内に約4トン/日の実証プラントを建設し、実証試験を開始致しました。また、2004年8月には蓄積した技術を発展させ、約70トン/日の実証プラントも竣工致しております。これらの事業はいずれも(財)石油産業活性化センターの補助事業として実施しているものです。今後も大型サンプルの製造ならびにフィールド試験を行いながら、経済性ならびに事業としての採算性を追求していく所存です。

なお、当社は2004年12月9日から11日まで東京ビックサイトにおいて開催される「エコプロダクツ2004」に「レコサール」を出展する予定です。



以上

 [レコサールの詳細\(PDF:41KB\)](#)